

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 1 区分

【発行日】平成24年11月15日 (2012.11.15)

【公開番号】特開2012-187021(P2012-187021A)

【公開日】平成24年10月4日 (2012.10.4)

【年通号数】公開・登録公報2012-040

【出願番号】特願2011-51960(P2011-51960)

【国際特許分類】

A 0 1 B 35/00 (2006.01)

B 6 0 K 17/04 (2006.01)

B 6 0 K 17/22 (2006.01)

【F I】

A 0 1 B 35/00 C

B 6 0 K 17/04 C

B 6 0 K 17/22 Z

【手続補正書】

【提出日】平成24年8月29日 (2012.8.29)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 4】

この場合、上記跳上回転体 8 は、図 5、6 の如く、ローター胴 8 a の外周面に複数個のナタ刃状の跳上刃 8 b を突設してなり、図 5 の如く、走行機体 1 の進行方向の回転軸線 O の廻りに一方向 N に回転して圃場 M の泥土を跳ね上げる構造となっており、又、上記放出位置変向機構 9 は、図 2、図 5 の如く、機枠体 4 に上記跳上回転体 8 の上方位置、前後位置及び両側方位置を覆う上板 1 1 a、前板 1 1 b、後板 1 1 c 及び側板 1 1 d・1 1 d からなる底面が開口する略四角筒状の固定カバー部材 1 1 を取付け、この場合、固定カバー部材 1 1 は分割形成された左右一対の半カバー体 1 1 e・1 1 e からなり、左右一対の半カバー体 1 1 e・1 1 e は機枠体 4 にそれぞれ枢軸 1 1 f・1 1 f により上下退避回動自在に設けられ、上記機枠体 4 の下部に軸受筒部 4 a を進行方向に横設し、軸受筒部 4 a に駆動主軸 4 b を軸受し、軸受筒部 4 a の外周面に可動カバー部材 1 2 に形成した回動リング 1 2 a を回動自在に嵌合し、図 2 の如く、可動カバー部材 1 2 は跳上回転体 8 の上方位置、前後位置及び両側方位置を覆う半円弧状の上板 1 2 b、縁板状の前板 1 2 c 及び後板 1 2 d からなり、上記作動軸 6 c に変向用歯車 9 a を取り付けると共に可動カバー部材 1 2 に弧状ラック歯体 9 b を取付け、作動用モータ 6 a を正逆回転して変向用歯車 9 a と弧状ラック歯体 9 b との歯合により可動カバー部材 1 2 を正逆回動させるように構成している。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 5】

この際、上記機枠体 4 の左右移動により左右方向 B に振れ動作 する上記動力伝動機構 1 3 の伝動軸 1 3 f を、上記整畦機構 7 の上方位置とする干渉回避位置 D に配設してなるから、進行方向前方の取付枠体 3 に配設された駆動軸 1 3 a と機枠体 4 側の従動軸 1 3 c

との進行方向の距離を長く取ることができ、それだけ、伝動軸 1 3 f の伸縮量、すなわち、外筒体 1 3 g と内杆体 1 3 h とのスライド量を小さくすることができ、上記機枠体 4 の左右方向 B の移動による上記伝動軸 1 3 f の左右方向 B の振れ動作 を円滑に行うことができ、機枠体 4 の左右移動も円滑に行うことができ、自在継手 1 3 e ・ 1 3 e の折曲角度も小さくできて動力伝動を円滑に行うことができ、整畦作業性を向上することができる。